



# 江南小だより

八戸市立江南小学校 学校だより  
令和5年3月24日発行  
通算第543号

## “当たり前の日常”の“当たり前”は、 どこかで誰かがつくっている

校長 笹川 カ

令和4年度のすべての課程を修了しました。これまでの保護者のみなさまのご理解・ご協力、また、地域の方々のご支援に心から感謝申し上げます。おかげさまで、子どもたちが健やかな成長を遂げたという確かな手ごたえを感じております。



さて、問題です。「ありがとう」の反対の言葉って何でしょう。正解は「当たり前」です。ありがとうは「あるのが難しい」「あり（有り）・がたい（難しい）」という言葉が変化したものです。「あることが難しい」「めったにないこと」ちょっとおおげさに言うと「奇跡」ということです。奇跡の反対の言葉は、「当然」とか「当たり前」。私たちは、毎日起こる出来事を当たり前と思って過ごしています。

- ・毎日、食事できるのが当たり前。
- ・目が見え、耳が聞こえるのが当たり前。
- ・「ただいま」って帰る家があるのが当たり前。
- ・学校に行って勉強できるのが当たり前。



ほとんどの人が、今日と同じような一日が明日も繰り返されると思っています。今日、誰かと会い、話し、笑い、食事をする。こんな当たり前だと思えることが、本当は奇跡の連続なのかもしれません。いろんな奇跡が重なって、今があるのです。過去のボタンを一つ掛け違っただけで、今とは全く異なる環境になってしまうのですから。

そして、目の前に差し出されている「当たり前」は誰かの努力の上に成り立っているのです。現在、「当たり前」をつくり出している誰か。過去に、「当たり前」をつくり出した誰か。実は、ちっとも当たり前のことなんかではないのです。

ですから、今を当たり前と思わずに、「ありがとう」という気持ちを持つことが大切なのだと思います。今年度大きな事故やけががなかった江南小学校。その奇跡に感謝しながら、今年度を終えたいと思います。



4月から、新学期が始まります。子どもたちはそれぞれ一つ上の学年に進級します。4月6日の新任式に、全員と元気にお会いできるのを心より楽しみにしております。